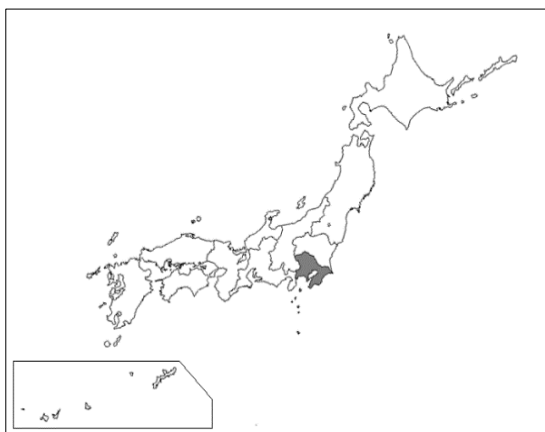


## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

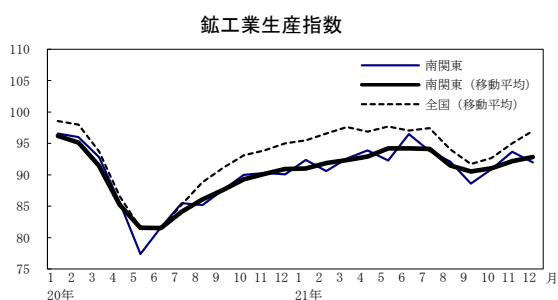
### 前回からの主要変更点

	前回（令和3年12月）	今回（令和4年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	→
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が増加したこと、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により、前期比0.8%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び南関東の大線は中心3か月移動平均。  
 直近月は2か月平均。  
 3. 南関東は内閣府にて算出。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラスチック	22.2	▲3.1	1.5	▲1.2	1.2	1.7
輸送機械	14.1	▲10.3	9.3	25.3	22.7	▲7.2
汎・生産・業務用機械	13.7	▲2.4	2.3	6.2	▲2.9	▲3.1
電子デバイス、電気・情報通信	12.6	▲5.7	▲3.8	1.8	1.1	▲1.5
食品・たばこ	12.4	0.8	—	▲0.8	1.5	—
鉱工業	100.0	▲2.9	0.8	2.6	3.1	▲1.8

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 10-12月期、12月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

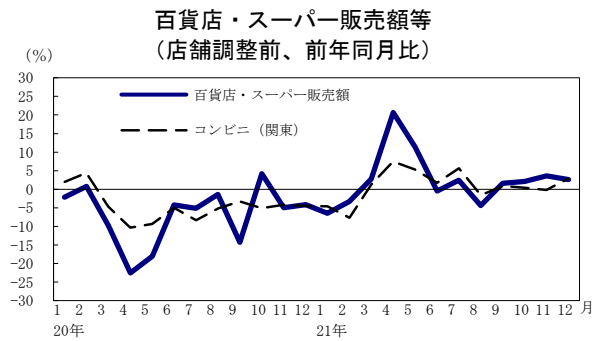
個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

10-12月期は前期比4.1%増となった。月別にみると、10月は前月比3.6%増、11月は同1.1%増、12月は同0.5%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比2.7%増となった。月別にみると、10月は前年同月比2.1%増、11月は同3.6%増、12月は同2.6%増となった。



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDE I (消費*1)	4.1	3.6	1.1	▲0.5
百貨店・スーパー(*2)	2.7	2.1	3.6	2.6
コンビニ(*3)	1.1	0.4	▲0.2	2.9
乗用車(*4)	▲19.4	▲30.3	▲14.6	▲13.1
(季節調整値)(*4)	▲2.6	11.4	12.8	1.9

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

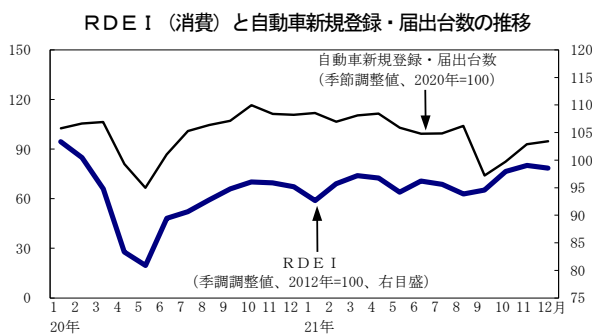
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

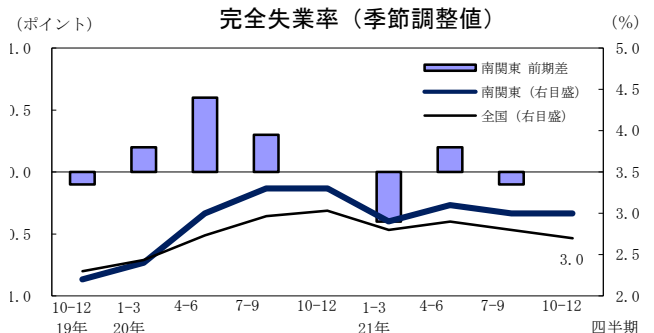
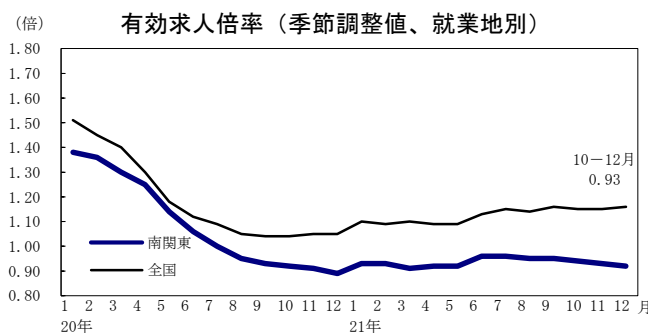
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	□	・売上、来客数は前年並みを維持しているものの、買上単価の上昇がみられない。日々必要最低限の食材しか購入していない上に、買い回りをしている様子もうかがえる（スーパー）。
		▲	・1月から新型コロナウイルスオミクロン株による感染が拡大していることもあり、来客数が前月に比べて減少してきている（百貨店）。
		×	・1月上旬は、東京都内の新型コロナウイルス感染者数がかなり増えたが、その割には週末の夜もそれほど変わりなく客が来店してくれていた。やはりまん延防止等重点措置が適用されてからは、週末の予約も立て続けにキャンセルとなり、予約数がゼロとなってしまうので、また飲食店は厳しい状態になっている（一般レストラン）。
	企業動向 関連	□	・昨秋以降、新型コロナウイルスの感染状況が少し収まってからは受注量が増えつつあったが、ここにきて新型コロナウイルスオミクロン株の感染者数が増えてきているので、動きが止まってしまい、ほとんど状況は変わらなくなっている（プラスチック製品製造業）。
		▲	・年明け早々から、新型コロナウイルス感染第6波の影響で、イベント関連等の印刷物が中止になり、急激に動きがストップしている（出版・印刷・同関連産業）。
		×	・設備投資をしにくい環境であり、価格競争も激しい。さらに、原材料も高騰している（建設業）。
雇用 関連	○	・IT系企業を中心に、前年より内々定が早く出されているようである（民間職業紹介機関）。	
	□	・まん延防止等重点措置が適用され、年末に回復基調だった求人数が横ばいになっている。今後、緊急事態宣言再発出に至るまで新型コロナウイルスの感染状況が悪化すると、一時的に悪くなる可能性もあるのではないかと（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			□：助成金や補助金を使いたい会社が多く見受けられる（社会保険労務士）。 ×：新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の影響で、ほぼ全ての案件がキャンセル若しくは延期となっている（旅行代理店）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向 関連	□	・新型コロナウイルスオミクロン株のピークアウト次第で業績は回復方向に向かうと思われるが、現状が続くようであれば変わらない（衣料品専門店）。
		▲	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大状況によるが、まん延防止等重点措置から緊急事態宣言に移行したりすると更に悪くなる。コンビニエンスストア等の営業への影響は、これからの感染状況がどうなるかによって変わってくる（コンビニ）。
	企業動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染拡大はいまだに収束する気配がない。しばらく、部品調達が不安定な状態が続くとみている（輸送用機械器具製造業）。
		▲	・現在の新型コロナウイルスの感染状況から、当面収束することは予測できないので、年度末の学校行事の撮影や、卒業アルバム関連の動きは悪くなるのが予想される（その他サービス業 [映像制作]）。
	雇用 関連	□	・2～3か月後の景気としては大きく変わらないと予想しているが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況によってはやや悪くなるかもしれない。経済活動がどれだけ制限されるかが全てではないかと。感染者が増えたとしても並行して経済活動、消費が進めば、求人数は自然と増加していく（求人情報誌制作会社）。
その他の特徴 コメント			○：新型コロナウイルスの3回目のワクチン接種が進展し、感染拡大がピークアウトする（都市型ホテル）。 □：新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制限が復活しているなかでも、引き続き新年度にかけての受注量が見込まれる（一般小売店 [書店]）。

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

